

佐倉福音キリスト教会

サクサク通信

2019年7月号(第55号)



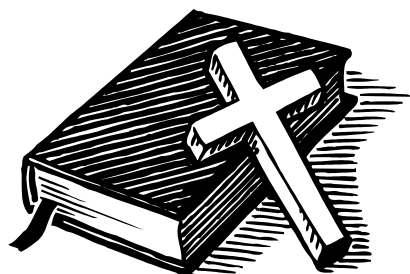
牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



今月の聖書のことば

あなたの重荷を主にゆだねよ。主があなたを支えてくださる。主は決して正しい者が揺るがされるようにはなさない。【詩篇 55 篇 22 節】

私たちは様々な重荷を負うことになりま
す。仕事、学校、PTA、サークルなどそれぞ
れが置かれている場で重荷を負うことにな
ります。それは、役職であったり、あること
を任される責任であったりします。聖書は
そのような重荷を抱えている人に対して、
「もっと頑張れ」「自分の力で何とかしろ」
「耐えろ」とは言いません。私などは体育
会系なところがありますから、「根性が足ら
ない」と言ってしまうこともありますが、
聖書は違います。聖書は、重荷を負った人
に対して「委ねなさい」と言います。ヘブル
語では直訳すると「投げなさい」となりま
す。つまりは、重荷を投げなさい、と。ただ
誤解されては困るのですが、これは無責任
を奨励しているわけではありません。「重荷を
投げなさい」と言っても、その投げる方向

があります。無責任に「もう耐えられない
から放り出してやる！」ということではあ
りません。聖書は、主（「神」のこと）に投
げなさい、つまり委ねなさいと言っていま
す。「主」とはどんなお方でしょうか。主は
弱っている者の味方でいてくださるお方
です。泣いている者に寄り添って下さるお方
です。辛い重荷を背負っている人のことを
心配して下さるお方です。このような主
に委ねなさい、と聖書は語ります。すると、
どうなるのでしょうか。私たちの考えから
すると、代わりにやってくくださる、と考
えたくりますが、そうではありません。聖
書は「主があなたを支えてくださる」と言
います。これは、「養う」とも訳される言葉
で、神様が必要な力を与え、助けてくださ
る。世話をしてくださり、それを行なう力

を与えてくださることを意味しています。私たちは、時に自分の力では到底行うことができない責任を負わされることがあります。責任感の強い人ほどそれを自分の力で全うしようとして心が疲弊したり、潰れてしまうことがあります。また、たとえやりきっても燃え尽き症候群のようになり、次に向かえなくなることもあります。

あなたは重荷を負わされた時にどうしてきましたでしょうか？背負わなくて済むように色々言い訳して逃げて来たでしょうか？それとも、責任感をもって自分の力で何とかしようとしてきたでしょうか？聖書は、その重荷を主に委ねよ。主に向かって投げなさい、と語りかけます。その時に、主が養って下さる。支えてくださる。必要な力は主が与えてくださることを約束して下さっています。本当はすべてを自分の力で出来たら素晴らしいと思いますし、達成感を持つことは幸いなことです。しかし、全部が全部自分の力でできることばかりではありません。私たちは小さなことから大きなこ

～集会案内～

- 日曜日：聖日礼拝 11:00～12:30 ○水曜日：聖書研究祈祷会 10:30～12:00
教会学校 10:00～10:40（子どもから大人まで） 19:30～21:00
○毎月第2火曜日：ユニケの会 10:30～12:00（子育てなどを行っている方のための集い。）

聖書に関する疑問等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。また、当教会は、エホバの証人やモルモン教、統一教会等とは一切関係のない、プロテスタントキリスト教会です。

とまで、神様に委ねていくのです。具体的には、まず神様にお祈りすることから始まります。そして、どんな職務が与えられているのかを具体的に神様にお伝えします。更に、そのことを達成するために必要な力を与えてくださるように祈り願います。当たり前ですが、実行するのは私たちです。寝ていても何も動きません。しかし、まず神様に祈り、自分がだれの力で事を行おうとしているのか確認することは大切なことです。己の力ではなく、神様に頼って私たちは事を行っていきます。神様はご自分に頼ってくることを待っておられます。ぜひその重荷を主に委ねてください。

◆コラム

今回は「重荷を委ねる」ということについて書きました。高校時代ですが、「宗教なんて弱い奴のやることだ」と言われました。でも、正直言ってそういう側面はあるだろう、と思います。そもそも私は自分を“強い”とも思いませんし、強くあろうとも思いません。これは開き直っているわけではなく、実際に強くないと思っているのです。最近の私は「弱くてなにか悪いんだ」という境地です。私が御頼りするのには無限の力を持っておられるお方であり、自分の力で何とかしようとしたら限界がありますし、疲れます。最近任されている職務はどれも重いものになってきました。そんなことを自分の力でなんて無理です。力まずに神様に頼っていきたくと思わされています。